

**地方における障害者運動の展開と障害者福祉制度の発展過程****－障害者の地域生活を支援する介助者の生活史を通して－**

○ 中部学院大学 氏名 打保 由佳 (05788)

キーワード3つ：生活史 自立生活運動 ソーシャルアクション

**1. 研究目的**

本研究は、障害者解放運動と自立生活運動（以下、障害者運動）に携わった介助者（Aさん）への聞き取り調査から作成した生活史をもとに、Aさんが暮らす地域での運動の展開と背景にあった障害者問題を明らかにする。そして、その運動に影響を受けて変わっていった地域住民の意識と発展してきた障害者福祉制度について考察する。

Aさんの語りを通して、Aさんと他者との相互作用や介助者として活動する中で体験した社会からの差別や偏見の体験にもとづき、Aさんが障害者運動を展開する背景にあった障害者問題を提起する。Aさんの生活史をもとにAさんのフィルターを通して映し出される社会的な問題を明らかにしながら、個人の抱えた葛藤がやがて組織を構成し運動を展開していく過程を描き出し、地域の障害者福祉制度の発展に寄与したソーシャルアクションの諸相を明らかにすることを目的とする。

**2. 研究の視点および方法****(1) Aさんの生活史の作成と障害者運動の展開の背景にある障害者問題の顕在化**

Aさんへの聞き取り調査を行い、Aさんの生活史の作成を通して、Aさんと他者との相互作用や関係の広がり、介助者として活動する中で体験した社会からの差別や偏見の体験をもとにAさんが障害者運動を展開する背景にあった障害者問題を明らかにする。

**(2) 地方における障害者運動の展開と障害者福祉制度の発展過程の考察**

Aさんが活動した地域の郷土史や障害者福祉制度に関する行政資料及び当時の社会情勢が分かる資料などをもとに情報を整理し、Aさんの口述と資料をつき合わせ、地方で行われた障害者運動が地域の障害者福祉制度に与えた影響を考察する。

**3. 倫理的配慮**

聞き取り調査では、聞き取りの内容をICレコーダーに記録している。調査の過程においてAさんには聞き取りの趣旨や目的を説明し、同意を得た上で進めている。ICレコーダーに録音した内容は文章としておこし、文章化した内容についてはAさんに公表の可否を確認している。また、Aさん自身が作成した記録についても、使用箇所の用途を本人に説明し、同意を得て使用している。

なお、Aさんの氏名や出身地、居住地を仮名にし、家族構成を変更することで本人を特定できないようにしている。

#### 4. 研究結果

本研究は、障害者運動に携わった介助者（Aさん）への聞き取り調査から作成した生活史をもとに、地域に根差した運動の展開とその背景にあった障害者問題を明らかに、運動がもたらした地域住民への意識変革や地域における障害者福祉制度の発展について考察している。

聞き取り調査は、Aさん個人を主体として、Aさんを取り巻く環境との相互作用や関係の変容を表現するためにAさん一人を対象として行った。

Aさんは、1970年代に都市部を中心として展開されていた障害者運動に参加し、ある一人の障害者との出会いをきっかけに、障害を持ちながら住み慣れた地域で生きる権利を求めて、Aさんの暮らす地方で障害者運動をはじめた。その当時、Aさんが暮らす地域では、障害者は親や施設での保護のもとで生活することが当たり前のもので強く認識され、障害者自身を主体とする団体は存在していなかった。Aさんは、施設に入所している障害者を連れて街に出て、介助者として障害者の隣にいて感じる差別や偏見を障害者の個人的な問題としてではなく、社会によってもたらされている社会的な問題として捉えた。そして、施設を出て地域で生活をしたいと願う障害者とともに行政機関との交渉を行い、障害者が自立生活をするための生活保障の拡充を訴えた。

当初は、Aさんの身近にいる障害者のためにはじめた活動であったが、40年余りをかけて仲間を増やし、ネットワークを広げた。次第にその活動は、地域における新たな福祉サービスの創設などの障害者福祉制度の発展へとつながり、障害者に対する社会の意識を変革しながら、徐々に多くの地域住民を巻き込む運動となって展開された。

障害者福祉制度が措置制度、支援費制度、障害者自立支援法、障害者総合支援法へと移り変わる中で、地域で暮らす障害者とともに障害者団体を立ち上げ、障害者の地域生活を支えるための介助者派遣や就労場所の確保を目的とした福祉サービスを提供する事業所の設立に結びついていくことになった。

#### 5. 考察

Aさんが障害者の地域生活実現のために活動し、その活動が組織化されていく過程を生活史上で明らかにした。また、Aさんの生活史を通して社会における障害者問題を顕在化し、障害者運動の展開と障害者福祉制度の発展について記述することで、実践と制度との相互的な関係を明示した。